

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Linoふれいす千里		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日 ～ 2025年 9月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40 (回答者数)	27
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもは安心感をもって通所している。	トラブルがあっても互いに納得し解決を行なえるようサポートを行っている。また、日常生活の中で楽しいと思えるよう全力でスタッフが関わり、毎日朝礼時に情報共有を行い統一した関わり方を行っている。	利用者様の隠れたニーズに目を向け、現状で満足せずに常に感動体験・成功体験に繋げていく支援についてを勉強会やミーティング時にスタッフ全体で考え実行する。
2	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている。	細かなことでも報連相を行い、どのような内容であっても軽視をしない。また、双方に不安な気持ちにならないよう伝達手段（送迎時、LINE、お手紙等）を内容によって変えている。	全スタッフが今後も情報伝達への配慮を行うことができるよう、朝礼時などで報連相について取り上げ、常日頃からスタッフ同士の報連相を行う意識向上を図る。
3	共感的に支援を行うことができる。	朝礼時や会議の際に利用者様や保護者様の気持ちに立って物事を考えることを意識している。ニーズや思いのすり合わせをこまめに実施している。	連絡を待つのではなく積極的にこちらから会話がしやすい環境を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信することができていない。	担当者や期日が曖昧になってしまっている。	・担当者と期日を明確化し、定期的に発信を行なっていく。 ・画像作成担当、発信担当と分担を行い一人ひとりの負担を軽減し発信しやすい環境をつくる。
2	非常災害時の訓練について認知されにくい状況となっている。	訓練時の内容周知方法が既存の方法だと認知されにくい。	・配布物の内容の見直しを実施。 ・定期的なSNS発信。 ・訓練を行っていることをお知らせとして配信を行う。
3	家族に対しての家族支援プログラム（ペアトレ）や家族も参加できる研修会など行っていない	家族支援プログラム実施の土台作りができていない。	定期的な保護者会を実施しており、参加しやすい環境を整えた後に研修会を開き学ぶ時間を作る。